

日本のデータベースの現状

廣瀬明倫、村山泰啓、渡邊堯、村田健史、渡邊英伸（独立行政法人情報通信研究機構）

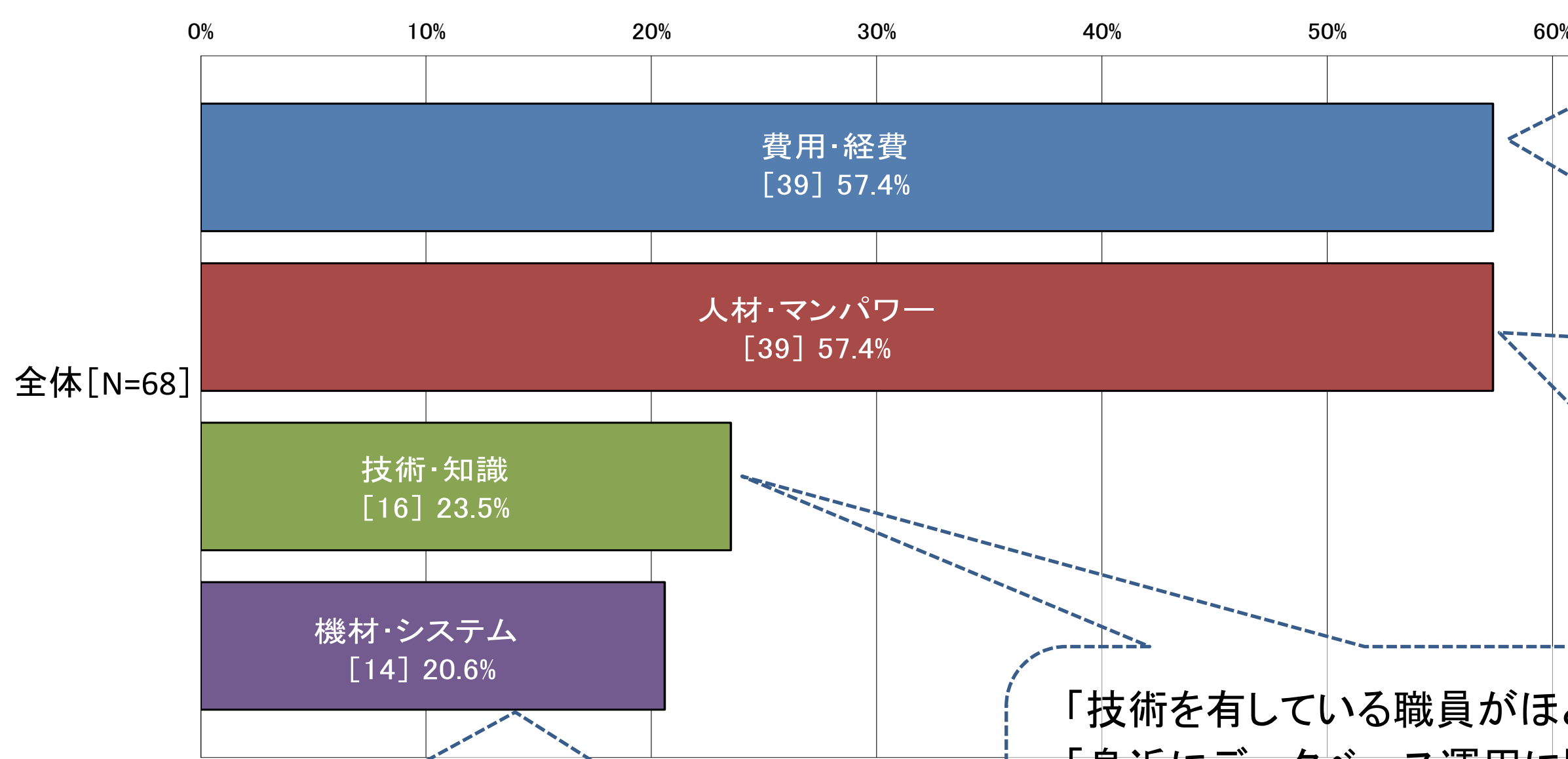
【要約】NICT(独立行政法人情報通信研究機構)では大学、公的機関、科学館及び博物館等を対象としたデータベースの現状に関するアンケート調査を実施した。132件の回答が得られ、その半数以上が「(維持管理やデータ更新のための)費用・経費」「人材・マンパワー」をデータベース運営に関する重要な課題だとしている。専任スタッフの不足に関わらずデータは永久に保存することが求められるなど、日本のデータベースが置かれた厳しい環境が示されている。データベース間連携の取組は一部で進められている。

— NICT(独立行政法人情報通信研究機構)が実施したアンケート調査(*)結果から —

* アンケート回答数:132件《大学(39件)、公的研究機関(25件)、科学館・博物館等(68件)》

問:データベース運営における課題は? ※自由記述形式、重複回答あり

➡ 半数以上が「費用・経費」「人材・マンパワー」と回答



「データベース維持に関わる費用の獲得が課題」
 「データ更新、システム保守・管理、データ公開用の費用負担」
 「安定した費用負担の財源がない」
 「(競争的)資金終了後の費用」
 「運用負担が今後の大きな課題」 等

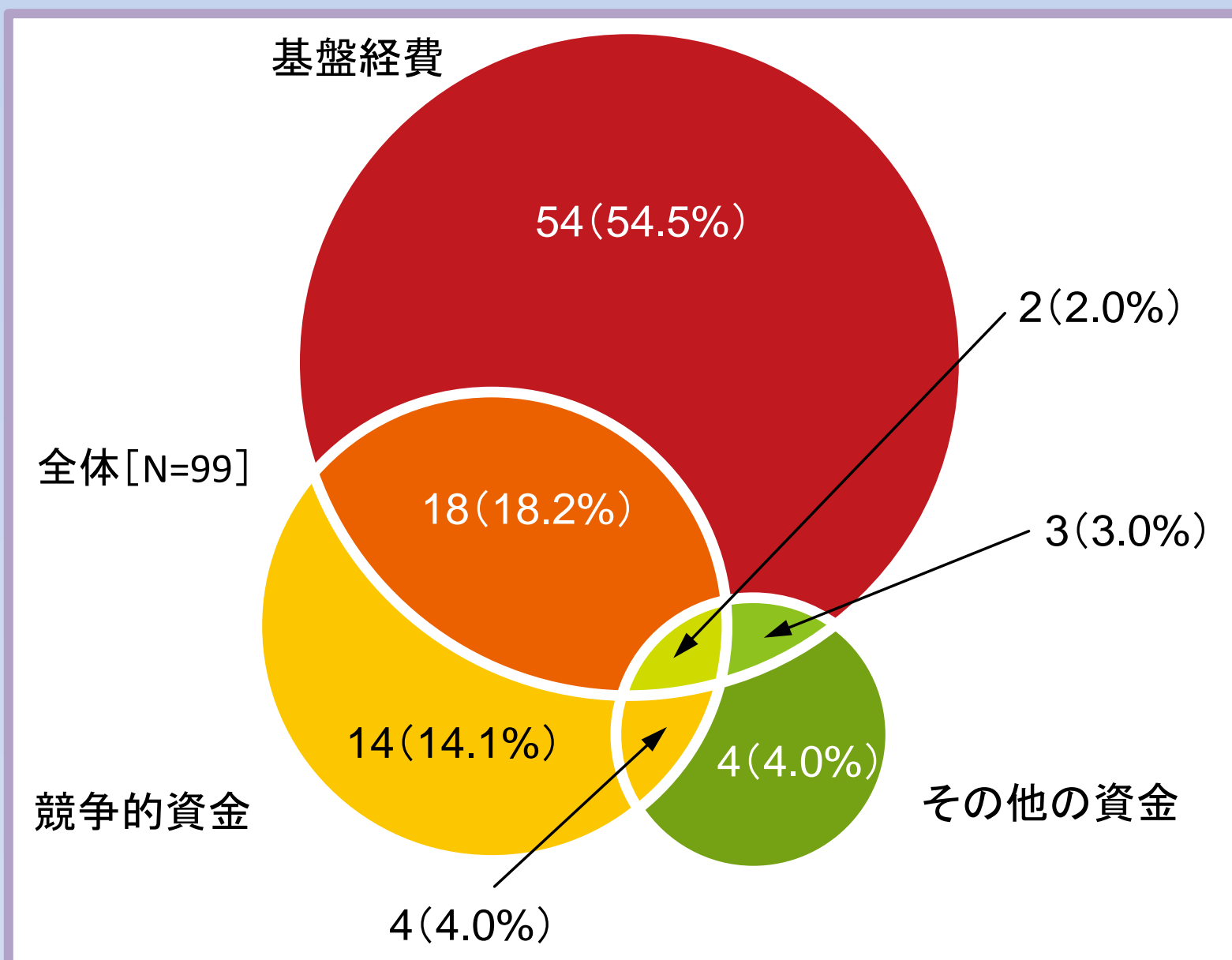
「データ収集・整備・更新のためのマンパワー不足」
 「分野的に、メタデータやデータの取扱が得意な人材が少ない」
 「(資金的理由により)必要な人材を雇用できない」
 「専任者がいない」
 「外部委託のため内部に専門家がない」 等

「技術を有している職員がほとんどいない」
 「身近にデータベース運用に関する技術を身につけた人がいない」
 「サーバのセキュリティ管理等の技術サポートがほしい」 等

「システムが古く、データ移動・新システム構築が課題」
 「アプリケーションの自由なアップデートができない」 等

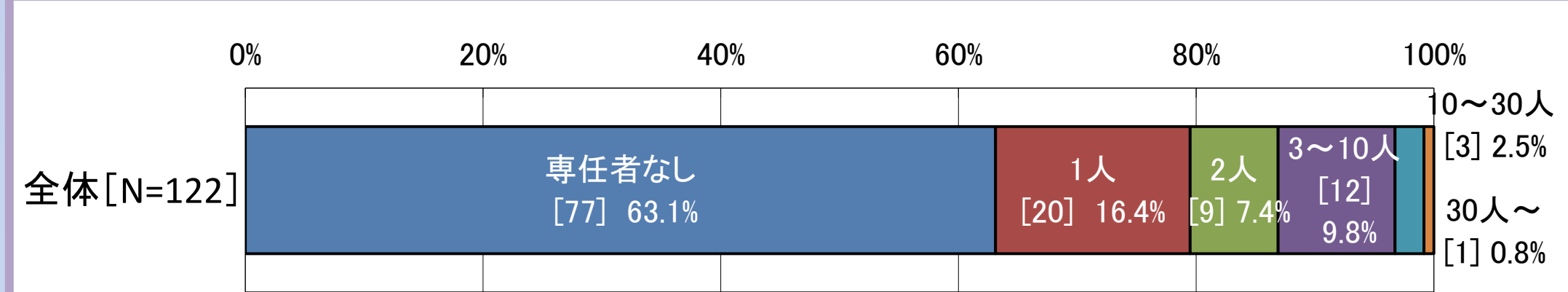
問:データベース運営のための費用は?

➡ 主な財源は機関の基盤経費。3分の1近くが競争的資金も活用



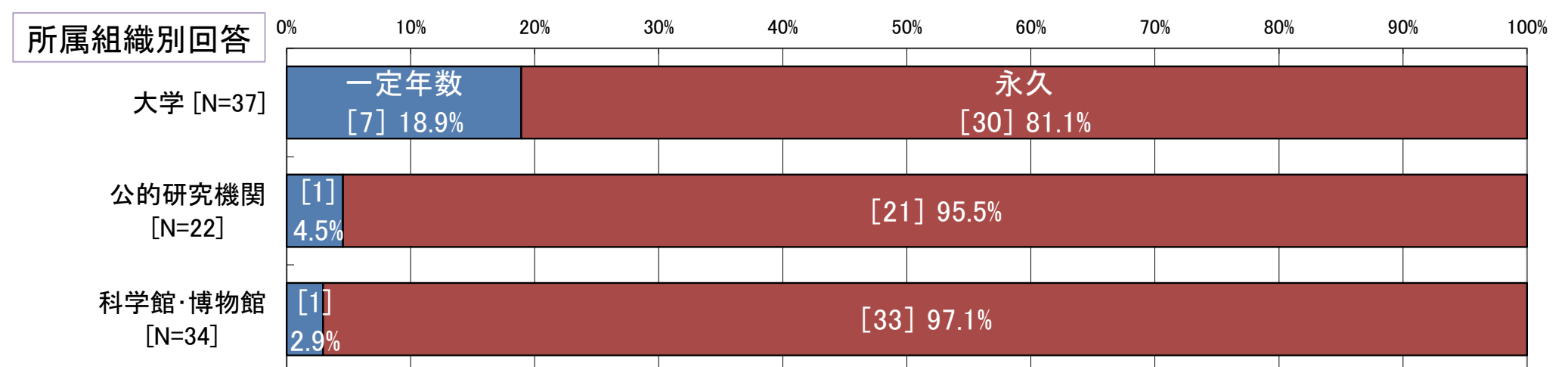
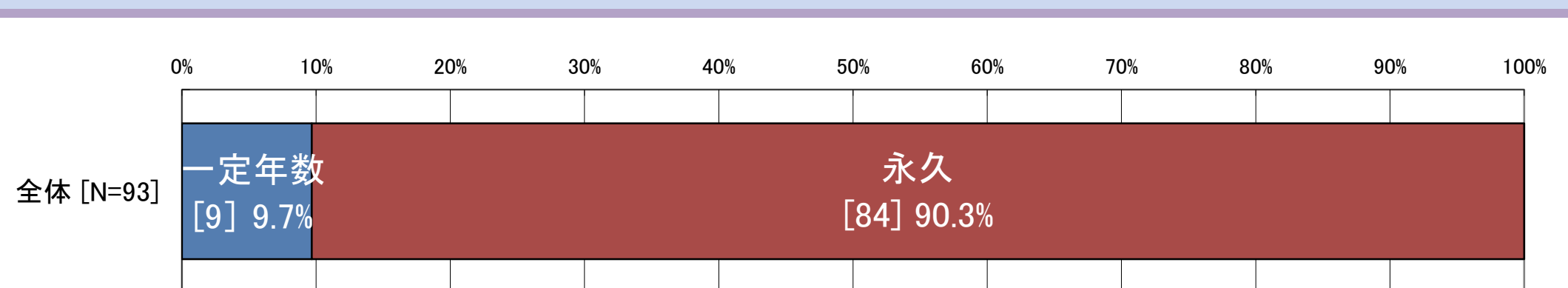
問:運営の従事者数は?

➡ 63%が「専任者無し」



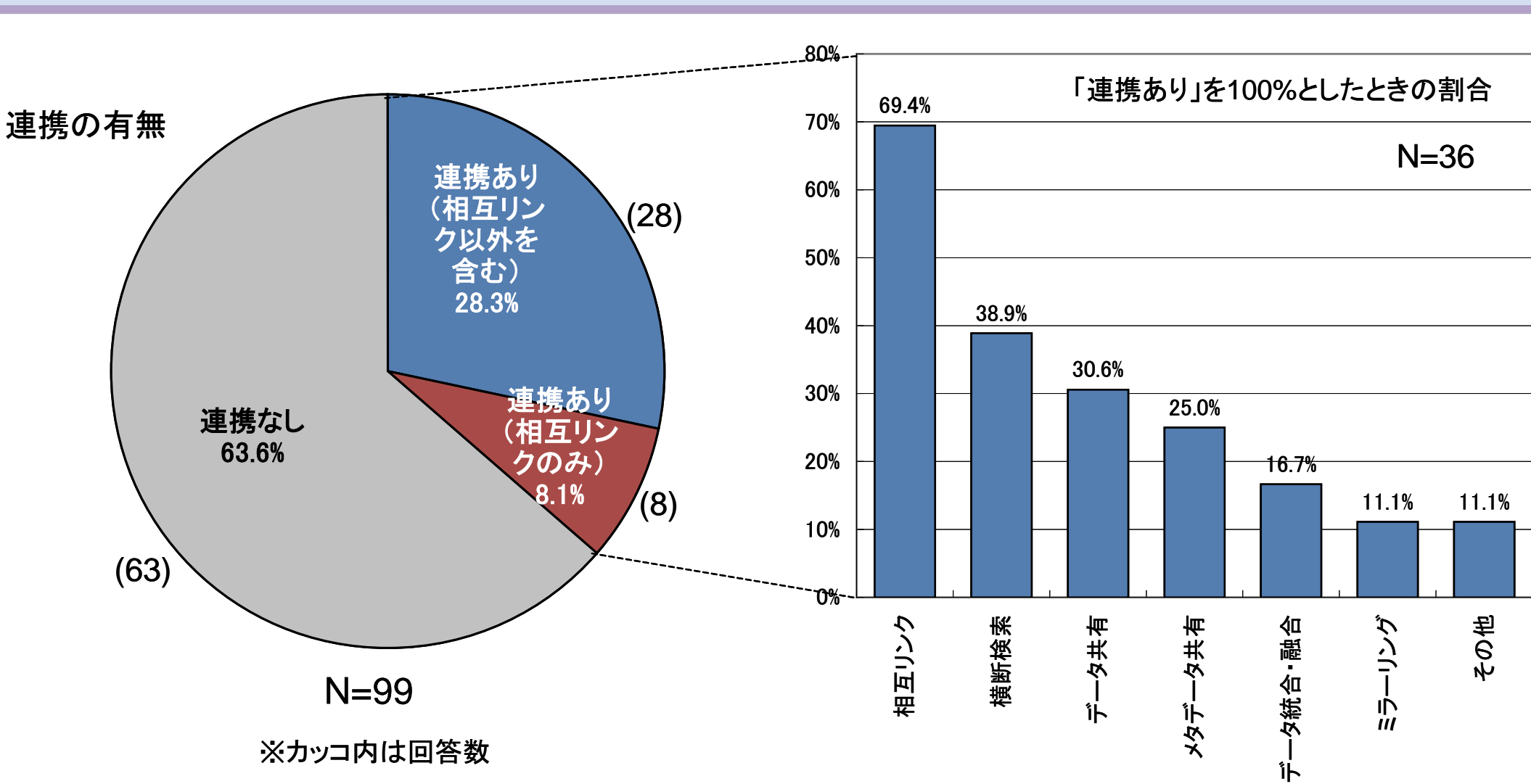
問:データを保存すべき期間は?

➡ 90%以上が「永久」

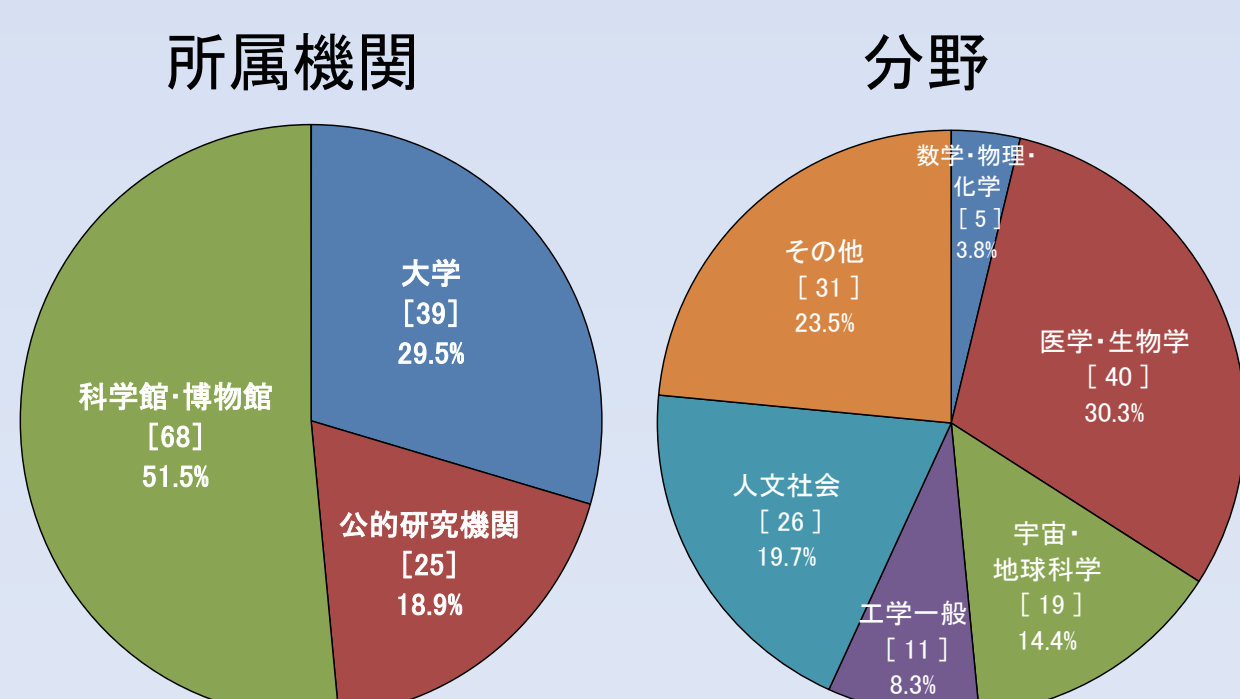


問:他のデータベース間との連携はありますか?

➡ 相互リンクが多いが、横断検索、データ共有等の連携も一部で始まっている



回答者属性



【問い合わせ先】
 独立行政法人情報通信研究機構
 統合データシステム研究開発室
 Tel: 042-327-6074
 Fax: 042-327-6490
 E-mail: isds-db@ml.nict.go.jp